

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202502		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙織音	ユニット名	草薙織音1階
所在地	静岡県静岡市清水区草薙2丁目22-10		
自己評価作成日	平成30年10月20日	評価結果市町村受理日	平成31年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2274202502-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2274202502-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成30年12月6日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ユニットを1つの家族と考えて、日々の暮らしが自然体で過ごす事が出来る様な援助をしていきたいです。そして自立の方が増えてきたので、1人1人のペースにあわせ、自分らしく生活ができるように取り組んでいます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人理念が一人ひとりに寄り添い「個別ケア」を構築しての実践である事を理解して日々の支援に努めている。昨年は看取りを含む数名の退去者が出たことから、利用者の平均年齢や介護度が低くなっている。カンファレンスを通じて個々の思いを把握して共有し、ケアプランに取り入れる事で「個別ケア」の実現が可能となっている。職員を大切にする法人の考えにより、産休制度を利用して復職後も無理なく働ける体制下で勤務できることから職員の定着率が高い。そのような環境下で研修制度も充実しており、介護の知識や経験に蓄積されることで質の高いケアの提供が可能となり、理念にも沿った笑いの絶えない事業所になっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域につながる理念のアイデアを出し合い、いろいろな言葉を集め作りました。 申し送り時に、企業信条と共に復唱する。	「地域と育む暮らしの和、元気よく、笑い声ひびく我が家わが町」を事業所の理念としている。運営推進会議に地域住民が10名以上参加するなど、地域に開かれた事業所の運営を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのお店の方、近所の役員の方など、散歩やホームの前にいると、挨拶を交わしています。	地域の祭りなど、職員体制が許す限り積極的に地域の行事へ参加している。また防災の工夫について地域住民から協力を得るなど、理念に即して共に事業所を育てている現状がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し、毎回地域の方々の参加があり、そのつながりで入居相談などあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況報告などをお伝えして、ご参加の方々から、質問・アドバイスを頂いています。	会議では、限られた時間で実りある内容にしようと事業所の報告だけでなく職員が講師となり感染症や防災などの研修を行っている。事業所で蓄積された知識を地域の参加者に還元することで、満足度の高い内容の提供ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に、連絡を取りながら、協力をお願いします。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に周知し、拘束は行っていません。身体拘束防止の研修も行っています。	定期的に研修を行い、身体拘束やスピーチロックをしないケアを職員間で共有している。帰宅願望がある利用者に対しては、職員が付添って一緒に戸外を歩く等の対応をして、適宜センサーを活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、意見を交わしながら防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者個人の、必要に応じて対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、書面をお渡ししてご説明し、ご理解・納得のいくまでお話し、後にサインを頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置。ご家族面会時に状態や状況をお話させて頂いています。ご相談など、その都度対応しています。	これまでに意見箱への投書はなく、家族からは直接意見を聞いている。意見は管理者が聞き取りを行うが、管理者が不在の時には職員が記入する「管理者不在ノート」に情報を集約して内容を共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1度、定例会の実施。カンファレンスも必要時に開催し、意見を出し合っています。それ以外にも必要に応じ開催します。	定例会では各フロアの職員が合同で集まり会議を行っている。職員の意見により、各フロアごとに職員の現状に即した勤務形態が用意されている。防災や感染、事故やレクリエーションなどの委員会を立ち上げ、テーマ別に検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度、管理者会議を本社にて開催。ホームの状況・職員の状態など報告しています。セルフストレスチェックの実施あり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務しながら資格取得。 ホーム内でのスタッフによる研修会があります。 ホームクリニックの研修・会社内での研修会があります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括の主催で3ヶ月に1度、有度地域のグループホームを対象に情報交換を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のご本人様との面談の際、色々なお話を聞きながら、希望や訴えに傾聴してプランを立て、職員と共有して達成できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から、細かな所まで、お話を伺い、希望に添えるようにプランを、立てていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居1ヶ月でプランを見直し、入居時の希望に添っているか、また今後のプランに今後のプランに必要な事も考えていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、一緒に家事をしたり、買い物に行ったりしています。食事や入浴の際にも、コミュニケーションを取りながら過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月次報告や面会時など、ご家族に状況をお伝えし、ご家族からも要望をお聞きしています。必要であれば宿泊もして頂きます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚やお友達など、面会は誰でも自由にして頂き、必要であれば愛犬等も一緒に暮らす事ができます。	ペットの持ち込みは可能な体制である。入居前に飼っていた犬と居室で引き続き一緒に暮らし、犬が息を引き取るまで過ごすことができた実績がある。面会時間は特に制限を設けず、いつでも来所できる環境である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1・2階の利用者様共に、ご本人の意思を大事にししながら、日々の交流をしています。各ユニットでも利用者様同士の雰囲気懸念される時は、階を移動し、空気を変えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方から、相談などあれば、その都度、対応し支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握の為、利用者様1人ひとりのお話を傾聴しております。伝えることが難しい場合は、行動からくみとれるよう、日々観察し、スタッフ同士話し合い検討しています。	利用者の意向はそれぞれの職員が聞き取り、その情報はケース記録に集約して共有している。内容によってはカンファレンスにおいて職員間で検討し、その結果として外出の企画などに希望を反映させることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、アセスメントを行い、今までの生活把握に努めております。又、日常のご本人との会話や、面会時のご家族やご友人の方々からも、聞くことができています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方、一人ひとりの日常を観察し、そのかわりをもつことで、現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に、カンファレンスを開き、スタッフ間で話し合い、現状にそった計画ができています。又、状況に変化があった場合は、すぐに話し合い、介護方法を変更しています。ご家族とも、面会時やTELで要望を聞いております。	利用者ごとの担当者がそれぞれモニタリング表を作成し、その情報を基に介護計画を立案している。作成された計画は回覧して職員間で共有され、実際の介護が提供されている。また最大6か月に1回の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人のケース記録や、支援日誌・申し送りノートなどに記録し、それらを読むことで、スタッフ間で情報共有に努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その方に合わせた柔軟なサービスを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サレジオ学園やボランティアの方々のご協力を頂き交流をしています。歌やバイオリン演奏会、踊りなど、御利用者様に楽しんで頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、ホームクリニック等が往診しています。急病の時等、臨時往診もしています。ご家族様にも報告し、希望を重視しています。	複数の医院より往診を受けている。往診医とは24時間体制で連絡が取れ、急変時の対応も可能である。協力医以外への受診は家族が付き添う事を原則とし、できない場合は有料で職員が付添う事も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1訪問看護師にて、健康チェックをしています。処置のアドバイスも受けています。指示により受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との、情報交換は常に出来る様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、かかりつけ提携医、訪看と話し合い、希望に添った支援が出来る様、常に連携を取っています。	看取りは行う方針であり、昨年から3件の実績がある。往診医や訪問看護師など医療職の訪問がほぼ毎日あり、随時指示や処置を受けることができる体制となっている。また、家族は希望に応じて事業所に泊まり付き添うことができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修・ホーム内研修・定例会での勉強会、現場での経験を活かし、対応出来る様努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いの訓練や、会議等でシュミレーションを実施したり、様々な時間帯や火災地震等の訓練をしています。防災研修に参加しています。	年4回地震から火災が発生することを想定した防災訓練を行い、今年は懸案であった夜間想定避難訓練を行う。消防署が立ち会う訓練では2部制として、第1部は避難訓練を行い第2部は消火や救急法の講習を受ける。	夜間の避難では、職員の人数が少ないこともあり非常な困難が予想される。地域と良好な関係を築いており、その関係を生かし災害の際の連携が構築されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室で話し掛けられ、泣きながら訴えている時は、傾聴しその方の話を聞いてあげます。	個人の性格や他者との関係性を考慮し、食堂の座る場所を変更したり個別に話を聞いたりする等の対応を行い、居心地の良い時間を過ごせるように気を配っている。また、オムツの使用が他者に判らないような配慮もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やりたいことが、できるように支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方が過ごしたいと思う様に、自室で過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の側にくしを置き、自由に使えるようになってます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物や好きな物を、お話しつつ、野菜を切って頂きます。	献立は当日の食事担当者が、用意されている食材から考えて調理を行っている。また、外食や行事の際のお弁当、バイキング料理やおでんパーティーの提供など、マンネリにならない様に工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲の出る様、色どりよくお出ししています。お茶を飲めない方には、飲める物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けをし実施して頂き、必要な方は、一部介助して口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を、時間ごとに声掛けしています。尿意・便秘難しい方には、その方に合わせ誘導・声掛け介助しています。	排泄チェック表で排泄の間隔を把握し、適時排泄の声掛けを行っている。誘導に対して拒否する利用者には、個々の性格に合わせて対応を変えるなどの工夫をしている。自立への支援により、オムツを使用する利用者は減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、便の薬を服用する方もいるので、個人に合わせ牛乳・ヨーグルトをお出ししています。野菜を多く使用した調理・乳製品、寒天を使ったおやつを作っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人に声を掛け、体調をみながら入浴実施しています。拒否がある方もいるので、入浴剤を使用して誘導しています。拒否があっても、毎日声掛けて様子みています。	入浴は週2回を原則としている。入浴剤を複数用意しており、効能を説明しながら入浴を行う動機づけをするなどの工夫により、入浴を拒否する利用者への対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、利用者様のご希望に添って自室で静養して頂いています。夜間、不眠の方は、かかりつけDrに相談しています。無理のない様、散歩・日光浴促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は、名前・日付け・薬の確認をしています。服薬後、別のスタッフが飲み忘れていないかチェックをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に合わせた、家事のお手伝いをお願いします。カラオケ・しりとり等、皆で楽しめるレクをしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様と一緒に、買い物へ行くようにしています。散歩・ドライブ・外食へといきます。家族の方と外食・散歩へ出かけられることもあります。	少人数での外食を3か月に1回程度、定期的実施している。車での移動ができない利用者は近隣の食堂に出かけるなど、多くの利用者が実現できるよう工夫している。また、花見や七夕まつり見物など、季節に応じて外出を実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて、利用者様全員のお金を管理させて頂いております。ご本人の、希望必要に応じ職員と一緒に、買い物に出掛けます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の、希望があった場合、電話や手紙のやり取りがスムーズにできる様に、対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、毎日小まめに、清掃を行っており、利用者様の居室は、清掃とベッドメイキングに加え、担当者に対応しております。利用者様と一緒に季節をモチーフにした、貼り絵を作って飾ったり、季節ごとの花を生けたり、季節感を出しています。	レクリエーション係が共用部の掲示を担当している。2カ月に1回は掲示物を変更する事を目標に活動し、調査時にはクリスマスの掲示が確認できた。感染症予防として、加湿器の設置や手すりやテーブルの消毒を毎日行っている。急な嘔吐に対応するため、マスク等の必需品をすぐに取り出せるように準備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では、個人で席を決め、本人の定位置があるという安心感のもと、誰でもくつろげるソファを利用して頂き、外にはベンチを置いて、季節に応じ使用しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に居室には、馴染みのある私物を置いて、安心感を持って頂いております。お泊りの希望のご家族には、簡易ベッドを用意しております。	居室はクローゼットが完備されており、部屋の模様替えや衣替えは利用者の担当者が主となって行う。地震などの防災の観点から、居室に持ち込むタンスなどの家具は、転倒予防を目的に背の低いものを家族に依頼している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の物をわかりやすく、置いてあります。安全面を考慮し、洗面所・脱衣所などに、椅子をおいてあります。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202502		
法人名	(株)日本ケアクオリィ		
事業所名	グループホーム草薙織音	ユニット名	草薙織音2階
所在地	静岡県静岡市清水区草薙2丁目22-10		
自己評価作成日	平成30年10月20日	評価結果市町村受理日	平成31年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202502-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202502-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ユニットを1つの家族と考えて、日々の暮らしが自然体で過ごす事が出来る様な援助をしていきたいです。そして自立の方が増えてきたので、1人1人のペースにあわせ、自分らしく生活ができるように取り組んでいます。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。
-------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域につながる理念のアイデアを出し合い、いろいろな言葉を集め作りました。 申し送り時に、企業信条と共に復唱する。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのお店の方、近所の役員の方など、散歩やホームの前にいると、挨拶を交わしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し、毎回地域の方々の参加があり、そのつながりで入居相談などあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況報告などをお伝えして、ご参加の方々から、質問・アドバイスを頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に、連絡を取りながら、協力をお願いしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に周知し、拘束は行っていません。 身体拘束防止の研修も行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、意見を交わしながら防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者個人の、必要に応じて対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、書面をお渡ししてご説明し、ご理解・納得のいくまでお話し、後にサインを頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置。ご家族面会時に状態や状況をお話させて頂いています。ご相談など、その都度対応しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1度、定例会の実施。カンファレンスも必要時に開催し、意見を出し合っています。それ以外にも必要に応じ開催します。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度、管理者会議を本社にて開催。ホームの状況・職員の状態など報告しています。セルフストレスチェックの実施あり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務しながら資格取得。 ホーム内でのスタッフによる研修会があります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括の主催で3ヶ月に1度、有度地域のグループホームを対象に情報交換を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のご本人様との面談の際、色々なお話を聞きながら、希望や訴えに傾聴してプランを立て、職員と共有して達成できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様から、細かな所まで、お話を伺い、希望に添えるようにプランを、立てていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居1ヶ月でプランを見直し、入居時の希望に添っているか、また今後のプランに今後のプランに必要な事も考えていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、一緒に家事をしたり、買い物に行ったりしています。食事や入浴の際にも、コミュニケーションを取りながら過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月次報告や面会時など、御家族に状況をお伝えし、御家族からも要望をお聞きしています。必要であれば宿泊もして頂きます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御親戚やお友達など、面会は誰でも自由にして頂き、必要であれば愛犬等と一緒に暮らす事ができます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1・2階の利用者様共に、御本人の意思を大事にししながら、日々の交流をしています。各ユニットでも利用者様同士の雰囲気懸念される時は、階を移動し、空気を変えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方から、相談などあれば、その都度、対応し支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握の為、利用者様1人ひとりのお話を傾聴しております。伝えることが難しい場合は、行動からくみとれるよう、日々観察し、スタッフ同士話し合い検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、アセスメントを行い、今までの生活把握に努めております。又、日常のご本人様との会話や、面会時のご家族様やご本人の方々からも、聞くことができます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方、一ひとりの日常を観察し、そのかわりをもつことで、現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に、カンファレンスを開き、スタッフ間で話し合い、現状にそった計画ができています。又、状況に変化があった場合は、すぐに話し合い、介護方法を変更しています。御家族とも、面会時やTELで要望を聞いております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人のケース記録や、支援日誌・申し送りノートなどに記録し、それらを読むことで、スタッフ間で情報共有に努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その方に合わせた柔軟なサービスを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サレジオ学園やボランティアの方々のご協力を頂き交流をしています。歌やバイオリン演奏会、踊りなど、御利用者様に楽しんで頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、ホームクリニック等が往診しています。急病の時等、臨時往診もしています。御家族様にも報告し、希望を重視しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1訪問看護師にて、健康チェックをしています。処置のアドバイスも受けています。指示により受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との、情報交換は常に出来る様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族、かかりつけ提携医、訪看と話し合い、希望に添った支援が出来る様、常に連携を取っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修・ホーム内研修・定例会での勉強会、現場での経験を活かし、対応出来る様努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いの訓練や、会議等でシュミレーションを実施したり、様々な時間帯や火災地震等の訓練をしています。防災研修に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室で話し掛けられ、泣きながら訴えている時は、傾聴しその方の話を聞いてあげます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やりたいことが、できるように支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方が過ごしたいと思う様に、自室で過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の側にくしを置き、自由に使えるようになってます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物や好きな物をお話しつつ野菜を切ってもらいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサーの方には、間食時補助食品を、摂取して頂いています。お茶を飲まない方へ、飲める物を提供します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けをし実施して頂き、必要な方は、一部介助して口腔ケアをしています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を、時間ごとに声掛けしています。尿意・便意難しい方には、その方に合わせ誘導・声掛け介助しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、便の薬を服用する方もいるので、個人に合わせ牛乳・ヨーグルトをお出ししています。野菜を多く使用した調理・乳製品、寒天を使ったおやつを作っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人に声を掛け、体調をみながら入浴実施しています。拒否がある方もいるので、入浴剤を使用して誘導しています。拒否があっても、毎日声掛けして様子みています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、利用者様のご希望に添って自室で静養して頂いています。 夜間、不眠の方は、かかりつけDrに相談しています。 無理のない様、散歩・日光浴促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は、名前・日付け・薬の確認を、しています。服薬後、別のスタッフが飲み忘れていないかチェックをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に合わせた、家事のお手伝いをお願いしています。 カラオケ・しりとり等、皆で楽しめるレクをしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様と一緒に、買い物へ行くようにしています。 散歩・ドライブ・外食へといきます。 家族の方と外食・散歩へ出かけられることもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて、利用者様全員のお金を管理させて頂いております。ご本人の、希望必要に応じ職員と一緒に、買い物に出掛けます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の、希望があった場合、電話や手紙のやり取りがスムーズにできる様に、対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、毎日小まめに、清掃を行っており、利用者様の居室は、清掃とベッドメイキングに加え、担当者が対応しております。利用者様と一緒に季節をモチーフにした、貼り絵を作って飾ったり、季節ごとの花を生けたり、季節感を出しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では、個人で席を決め、本人の定位置があるという安心感のもと、誰でもくつろげるソファを利用して頂き、外にはベンチを置いて、季節に応じ使用しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に居室には、馴染みのある私物を置いて、安心感を持って頂いております。お泊りの希望の御家族には、簡易ベッドを用意しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の物をわかりやすく、置いてあります。安全面を考慮し、洗面所・脱衣所などに、椅子をおいてあります。		